

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年6月20日（金）

2 確認箇所

- ・覆土式一時保管施設（瓦礫類一時保管エリアL）（図1）
- ・構外ヤード（図1）

3 確認項目

- （1）覆土式一時保管施設（瓦礫類一時保管エリアL）解消作業の状況
- （2）1号機原子炉建屋大型カバー組立て工事の状況

4 確認結果の概要

（1）覆土式一時保管施設（瓦礫類一時保管エリアL）解消作業の状況

東京電力は、令和10年度中の全ての固体廃棄物（ただし水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対象を除く）の屋外一時保管解消に向け、覆土式一時保管施設※（瓦礫類一時保管エリアL）に一時保管された瓦礫類を取り出し、金属容器へ収納した後、固体廃棄物貯蔵庫での保管を計画している。

当該エリア内には、第1槽から第4槽までの計4つの一時保管槽が設置されている。今般、第4槽において遮水シート、覆土、大型土のう等の撤去が完了し、それらの下部に保管されている瓦礫類の撤去が開始された。なお、第4層の周囲は作業によるダスト等の飛散防止のためテントで覆われている。このことから、本日は当該エリアの状況を確認した。（前回確認：令和7年6月16日）

- ・前回確認時に設置されていたダストモニタを保管するコンテナハウスが撤去されており、同じ場所に新たなコンテナハウスが建てられていた。現場確認時はダストモニタ等の入れ替え作業を行っていた。（写真1）
- ・ダストモニタによる計測ができないことから、本日のテント内での作業は中止となっていた。なお、テント周辺には代替測定として簡易型のダストサンプラが設置されていた。（写真2）
- ・テントは換気のため開放されており、テント内は半分ほど保護シートが剥がされ、北側のガレキが掘り起こされていた。（写真3）
- ・第4槽近傍の空間線量率は0.4 $\mu\text{Sv/h}$ であった。（前回と同じ値）（写真4）
- ・第1槽から第3槽について目視で確認した範囲では、廃棄物の飛散や流出などの異常は見られなかった。

※ 覆土式一時保管施設

高線量（～30 mSv/h ）の金属やコンクリート等の瓦礫類に覆土遮へいを施した一時保管エリア。

(2) 1号機原子炉建屋大型カバー組立て工事の状況

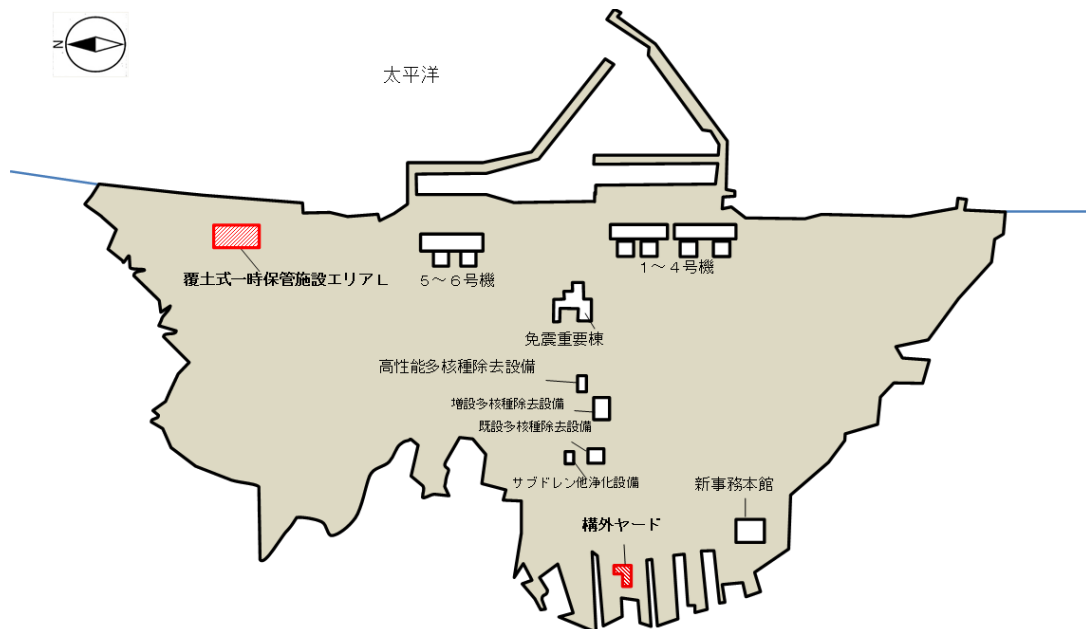
1号機使用済燃料プールには392体の燃料が保管されており、東京電力は、より安定した冷却及び保管が可能な共用プールに搬出することを目的に、燃料の取り出しを計画している。

燃料の取り出しに先立ち、原子炉建屋を覆う大型カバーを設置し、大型カバー内で瓦礫の撤去及びオペフロの除染・遮へいを実施し、燃料取扱設備を設置する計画である。

1号機に設置する大型カバーは福島第一原子力発電所の管理区域外にある構外ヤードにて地組を行っていることから、現在の状況を確認した。

(前回確認：令和7年5月14日)

- ・現場確認時、可動屋根が5ブロック保管されており、屋根にシートを取り付ける作業を行っていた。(写真5)
- ・ボックスリングの一部はすでに構内に搬入されていた。道路脇には今後搬入を予定しているボックスリングが荷台に固定されていた。(写真6)
- ・ガレキ撤去用の天井クレーンの地組が行われていた。(写真7)
- ・上部架構の一部が保管されていた。(写真8)
- ・高所作業においては手すりの設置やフルハーネス型安全帯の使用など安全対策が講じられていた。(写真9)
- ・確認した範囲において、設備の破損や資機材の散在などは見受けられなかった。



(図1) 福島第一原子力発電所概略図



(写真1-1) ダストモニタの設置状況① (撮影日: 令和7年6月16日)



(写真1-2) ダストモニタの設置状況② (撮影日: 令和7年6月20日)



(写真2) ダストサンプラの設置状況



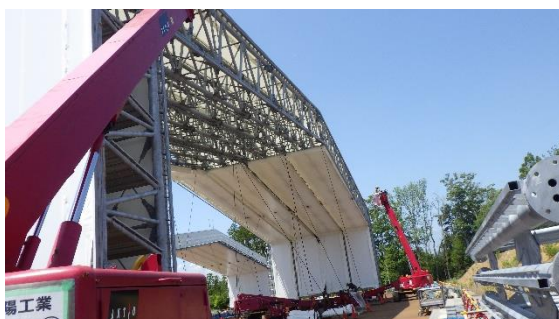
(写真3) テント内の状況 (南側から撮影)



(写真4) 線量表示器の設置状況 (当日の計測値: $0.4 \mu\text{Sv/h}$)



(写真5-1) 可動屋根の保管状況



(写真5-2) シート取り付け作業の状況



(写真6-1) ボックスリングの搬出状況 (4割程が構外ヤードから構内に搬出済。)



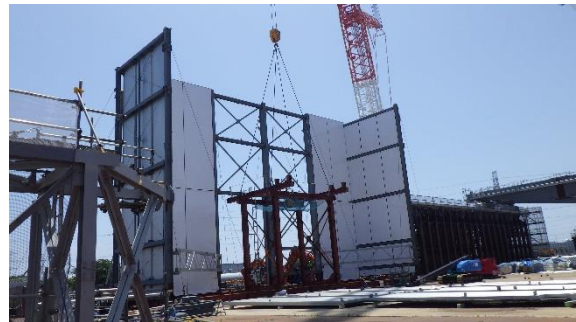
（写真６－２）構内に搬入予定のボックスリングの一部



（写真７－１）ガレキ撤去用天井クレーンの地組状況①



（写真７－２）ガレキ撤去用天井クレーンの地組状況②



（写真８）上部架構の保管状況



フルハーネス型安全帯の使用

（写真９）高所作業者の安全対策

５ プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。